

どう避難する？

洪水による避難では、居住される場所やその時々状況によっていくつかの行動パターンがあります。
事前に考えておくことが、いざというときの円滑な避難につながります。



自分の命は自分で守るという意識をもって、自分の判断で行動することがポイント！



！ 早期長距離避難

市内には、河川のはん濫により重大な損害が及ぶおそれのある大規模な河川が多数あり、徒歩圏内の指定緊急避難場所への避難では収容能力が十分ではないと見込まれる校区が複数存在します。

マップの【⑤早期長距離避難】に示す【早期長距離避難の対象者】を確認して、可能な方は早い段階での避難開始による長距離避難を検討しましょう。

本市における危険度に応じた避難行動

避難行動 1 指定緊急避難場所等 への立退き避難

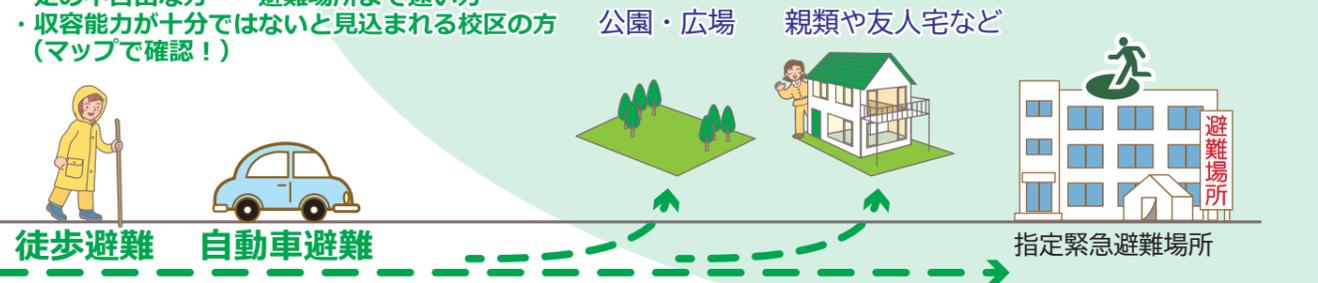
- ・マップに着色がある方の**基本的な避難行動**です。
- ・早い段階での避難が可能な方は、浸水が想定されない安全な場所へ避難しましょう。



早期長距離避難

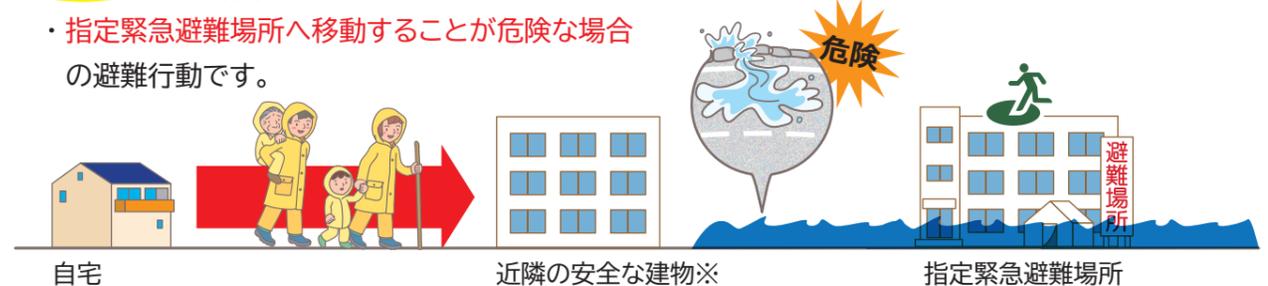
【対象者】

- ・足の不自由な方
- ・避難場所まで遠い方
- ・収容能力が十分ではないと見込まれる校区の方 (マップで確認！)



避難行動 2 近隣の安全な場所や建物 への立退き避難

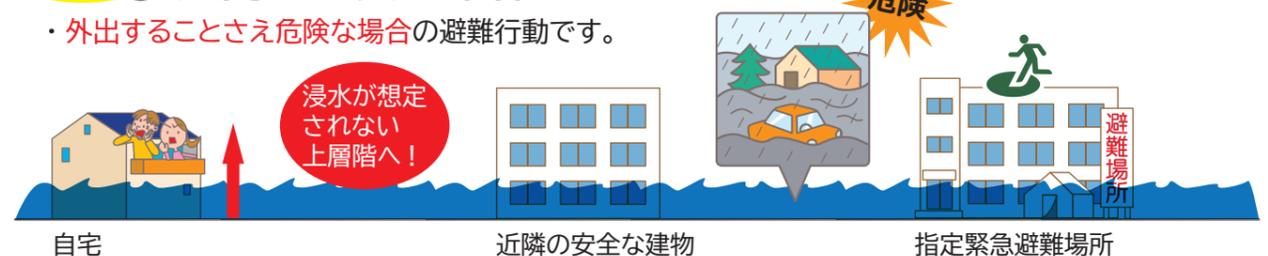
- ・指定緊急避難場所へ移動することが危険な場合の避難行動です。



※ 高齢者が多い地域などで、避難行動が遅れた場合に備えて、自主防災組織などが地域内の比較的的安全な施設を自主的に避難先に設定することも考えられます。

避難行動 3 屋内での安全確保 (建物内での垂直避難)

- ・外出することさえ危険な場合の避難行動です。



(注) 早期の立退きが必要な区域に該当する方、もしくは最上階が浸水のおそれのある方は、この避難行動では安全の確保ができないことから、早めに立退き避難をしましょう。

- 危険**
- ・夜間や豪雨による視界不良・自宅周りの浸水
 - ・要配慮者（高齢者、障害者など）のみ在宅時
 - ・内水はん濫（柵のない水路、蓋のない側溝など）の危険性 など
- そのときの状況により、自分で判断して適切な避難行動をとる必要があります。

！ 自動車避難について

- ・避難の原則は、『徒歩避難』であることをまず知っておきましょう。だれもが自動車避難をすると下記の渋滞発生危険性が高まることにつながります。
- ・対象は、足の不自由な方や避難場所までの距離が遠く徒歩避難が困難な方、避難場所の収容能力が十分ではないと見込まれる校区の早期避難が可能な方です。危険性を知り、早めに避難開始しましょう。

【自動車避難の危険性】

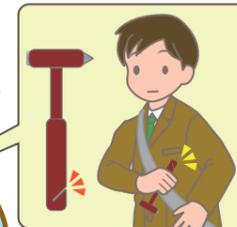
- ・浸水したアンダーパスで動けなくなる
- ・渋滞が発生して避難場所までたどり着けない
- ・川沿いの道路が崩れて川に転落する
- ・緊急車両の通行の妨げになってしまう

【浸水が始まるとどうなる？】

★浸水が床面を超えたら、もう危険です

電気系統やエンジンの損傷
→ドア、ウィンドウが動作しない、エンジン停止、再始動しない

脱出用ハンマーのカッター部分でシートベルトを切る



- 水深がドアの半分を超えると内側から開けられなくなるおそれ
→脱出用ハンマーで窓ガラスを割る
→内外の水圧差がない状態でドアを開ける

- タイヤが水没すると車体が浮いて移動が困難になるおそれ

詳しくは、「国土交通省道路局HP」を確認ください。

国交省 冠水不具合



【避難の際に注意すべきこと】

1. アンダーパスや川沿い道路は通らない
2. 道路冠水に注意
濁った冠水に安易に入らない
3. 緊急車両の通行を優先する
4. 徒歩避難者に注意
5. 浸水、トラブルなどで車を放置する際は路肩へ寄せる
6. ラジオで情報収集

